

# stage



▲客席とのフリートーク (向かって左奥より ICANOFの三浦文恵・豊島重之・米内安芸、講師の南條史生氏)



▲世界各地のアートの事例をスライドで説明する南條氏



▲第7回八戸芸術大学より。左から豊島重之、米内安芸、南條史生氏。

台風一過の好天に恵まれた8月10日、八戸市美術館に五〇名をこ

える一般市民が集い、市民アートサポートICANOF(代表米内安芸)主催「第七回八戸芸術大学」が開かれた。講師は、ヴェネチア・ビエンナーレや横浜トリエンナーレのコミッションナーとして世界的に活躍する南條史生氏。講演テーマは「パブリックアートと多文化都市八戸」。

この催しには三つの大きな意義がこめられていた。第一に、これまでのICANOF八戸大の活動が全国的にも上位ランクに評価されて、文化庁の「文化ボランティア推進モデル事業」に選ばれたことである。おそらく、ICANOFが日本芸術文化振興基金助成事業として、継続的に毎年一回、八戸市美術館で大規模なメディアアートシヨウを企画実現しているからだろう。また、今年7月に相次いで国土交通省のPR誌「Bleu Vague(青波)」や青森県美術館準備室の

## 演劇空間スベースベン

### 南條史生講演会・盛況

#### 「来たるべき多文化都市のために」

〈文・豊島重之(市民アートサポートICANOFキュレーター)〉

機関誌「Asim」でICANOFが大きく紹介されたし、さらに八戸市の大河原助役が東奥日報紙上でICANOFを高く評価してくれたことも大きい。いずれにしろ、上記モデル事業の第一弾として南條史生氏ほどふさわしい講師は他にいない。

第二に、ICANOF独特のスケール感あふれる「多文化都市八戸」構想。読者の中には、発足して3年にも満たない、まだまだ八戸市民にさえ浸透度の低いICANOFが、なぜ全国的にそれほど高い評価をうけるのか不思議に思う方もおられるだろう。しかし私たちは発足までに数年かけて互いに疑問をぶつけあつて構想を練りあげてきたし、既成のアーティストではない、ごく普通の市民の中から

「開かれた議論」のできるステキな人々を数年かけて探し歩いて発足にこぎつけたのだ。十名余の創設メンバーは「他者の声に耳を澄ますこと」を厭わない。だから単にウケ狙いの人は入ってきても抜けていくし、じっくり時間をかけてセンスを磨こうと思う人なら必ずや本物になっていく。今はアート感覚の乏しいこの街も、じきに多文化都市とならざるを得ないのが世の趨勢だ。その時になってから急ごしらえで人づくりを始めても追いつくはずがあるまい。来たるべき多文化都市八戸をになう主体が、いまICANOFから着実に育っている。南條史生氏の講演もそれを裏づけるものであった。

第三に、パブリックアートとは何か。駅前プロンズ彫刻やニユ

**9**月のFriday Amusement Negative Shop

■9月5日(第500回) 500回記念3本立て公演  
 ①作・出演 安達良春  
 ②作・出演 紫葉実  
 ③作・出演 田中勉

■9月12日(第501回) シバミカラオケBOX 化計画

■9月19日(第502回) 未定

■9月26日(第503回) 未定

※全て午後7時30分～、料金500円  
チケットはスペースベンにて販売

Space BEN

駐車場はございませんので、車でのご来場はご遠慮下さい。(近くに西町駐車場有り)

☎ スベースベン 43-9876  
 八戸市柏崎1-11-8  
 FAX 03-5908-9120

※スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールマガジンでご確認下さい。

※スペースベンでは、毎週月曜日午後7時30分から、沼尾美也子さんによりますジャズダンスレッスンを開催しています。一度見学にいらして下さい。

FANSでは、脚本を広く募集しています。何か表現したくても踏み出せないあなた、一度「物語」を書いてみませんか? FANSでは、そんな方の思いを大切に舞台にのせてみたいと思っております。

☎ スベースベンHPアドレス <http://spaceben.com/>  
 Eメールアドレス [owner@spaceben.com](mailto:owner@spaceben.com)

ータウンのモニュメントがそれとは限らない。それを見る市民がたとえば「多文化都市とはどうあるべきか」と考え始めないようなら、毒にも薬にもならないようなものをパブリックアートとは呼ばない。個を寸断し、コミュニティを崩壊させたケータイ化社会にコピーンビニ化社会にあつて、プライベートとパブリックの間にさまざまな線、さまざまな「他者」が往き交うことのできる線を引く思考。それがパブリックアートなのだ。

講演後の客席とのフリートークで、東京の新名所六本木ヒルズについて、その森美術館副館長でもある南條氏いわく、トップである森オーナーは、この六本木ヒルズという街そのものがパブリックアートだと考えている、それが彼のフィロソフィーであると。勿論、私たちの住むこの街ではそういうドラステティックなやり方は通用し

10月、また、第8回八戸芸術大学は、10月上旬、手塚治虫賞受賞の漫画家しりあがり寿(ことぶき)氏を講師にお招きする予定である。ICANOFの「元気の素」は、ブラリと足を運んでみようかなと思った読者の、そう、あなたです。

☎ ICANOF 090-2998-0224 (高沢)  
[mail\\_icanof@hi-net.ne.jp](mailto:mail_icanof@hi-net.ne.jp)  
<http://www.hi-net.ne.jp/icanof>